

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

## 1. 建物概要

建物名称	新津第二中学校	
建設地	秋葉区 荻島1丁目182-1	
用途地域	第一種住居地域、法	
建物用途	学校,	
竣工年	2014年3月 予定	
敷地面積	8,138.74 m <sup>2</sup>	
建築面積	2,063.38 m <sup>2</sup>	
延床面積	3,615.55 m <sup>2</sup>	
階数	地上3F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2012年8月17日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{54}{35} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全・創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 計画は部分建て替えのため、既設校舎との段差解消を図ります。
- 体育館において、1階ピロティの利便性と安全確保の観点から耐震強度を十分見込むものとします。
- 隣接して河川が流れており氾濫に控え地域データをもとに設計GLを高めに設定しています。
- 建物の断熱化を図り、遮熱にも配慮します。
- 出来る限り自然素材である木材の使用や再生可能資材を使用します。
- 狭小地ながら樹木や植栽帯をなるべく確保し、建物への日射の軽減や既設ビオトープの保全を図ります。
- 計画建物のバランスや、近接の民家への景観に配慮し、極力建物高さを抑えるものとします。

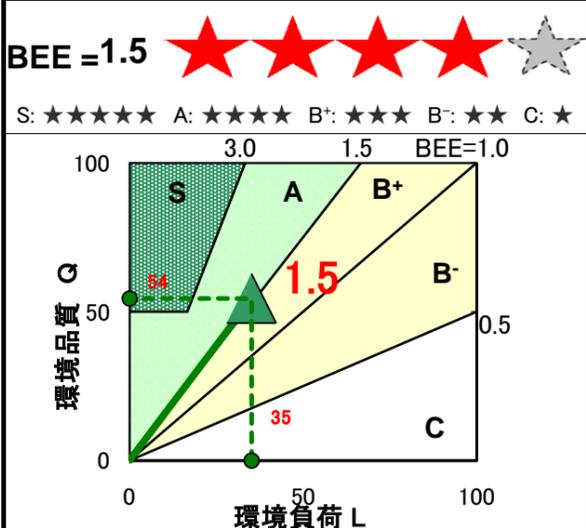
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE®新潟

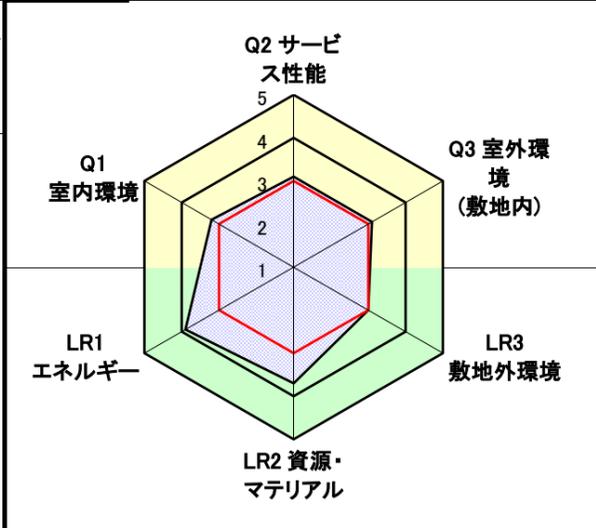
# 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

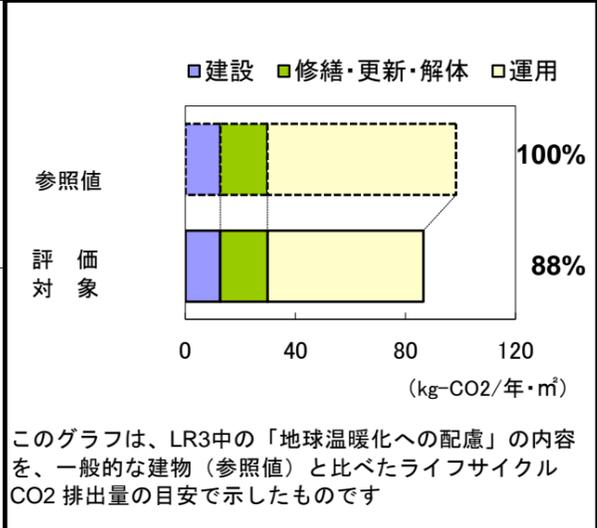
## 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



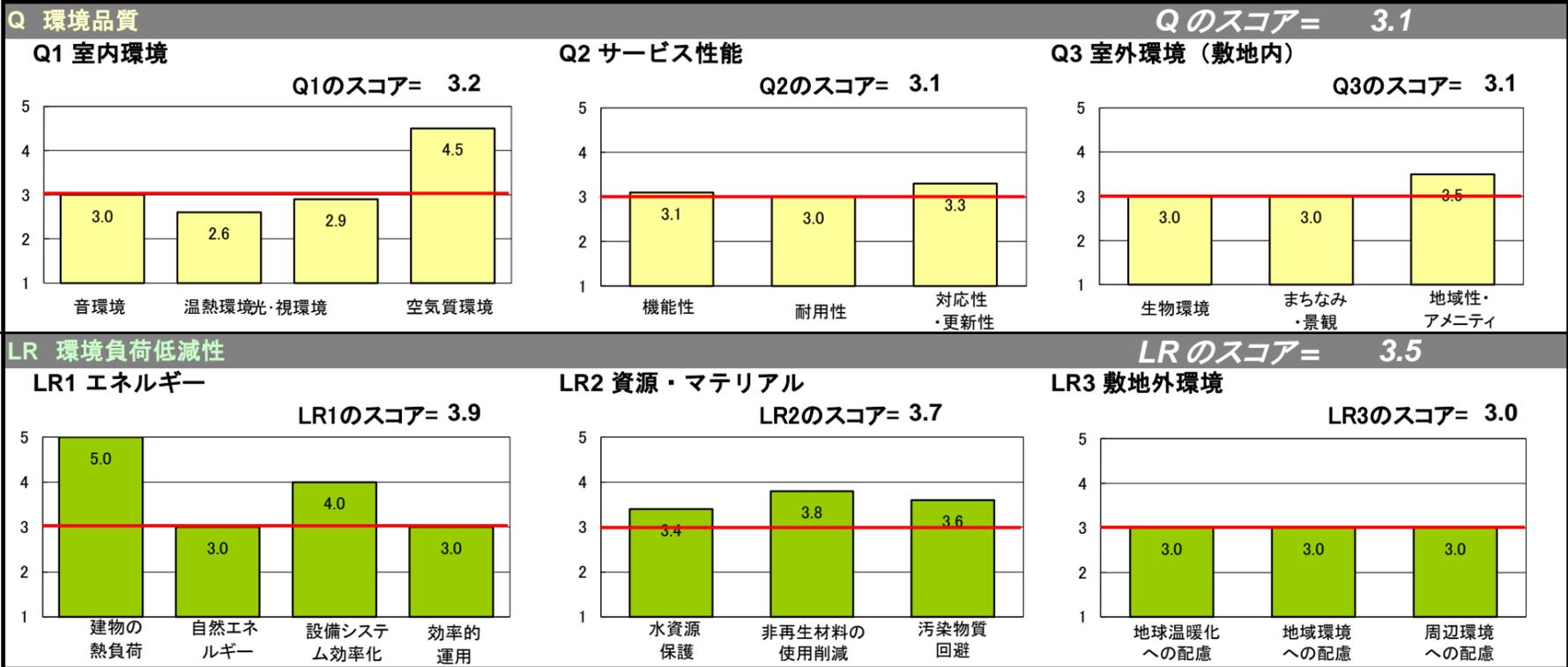
## 2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



## 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



## 2-4 中項目の評価 (バーチャート)



## 2-5 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>中庭を配した口の字型校舎であり、動線上バリアフリーとしての体育館との階高調整と、前面道路側への圧迫感を如何に低く抑え、周辺環境に影響を及ぼさないようにするかが配置計画及び断面計画では重要なポイントとして挙げ計画をしました。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>当校は歴史も古く、既設校門付近に配置されている記念樹や記念碑などを、新設校舎への再利用へ図ることとしました。また、アプローチとなる正面玄関は広場的な位置づけとして、憩いの広場となるよう開放的な空間とし</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>校舎においては既設校舎との仕上げの調和を図りつつ、耐久性や機能性に配慮した仕上げ材を採用しました。体育館においては怪我等をしにくい木材の採用はもちろん、十分な通風、換気が図れるよう開口部をできる限りバランス良く配置をしました。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>体育館の屋根付きスペース(ピロティー)は北側校舎と南側校舎を気候に左右されずに連絡できる空間として確保しました。また、中庭へのアプローチ動線であることから、中庭での行季用品の搬出入、あるいは、将来的な改修等の工事車両動線にも対応しました。その他、地域住民への緊急避難所として有効活用が図れるものであります。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>開口部を大きめにとり、通風、換気を十分図りました。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>木材は極力多用し、集成材などの再生木材の採用や、衛生設備機器は節水型タイプを使用します。また、屋外資材面についても出来る限り再生利用を図ることとしました。</p>
	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>北側隣地において、日影の影響を及ぼさないよう建物を出来るだけ低く抑えました。南側においては、民家部分の眺望の配慮や開口部からの騒音を少なくするうえで開口部は少なめとしました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される